



療養型病院における 医療と介護の連携システム

在宅医療連携拠点事業報告会

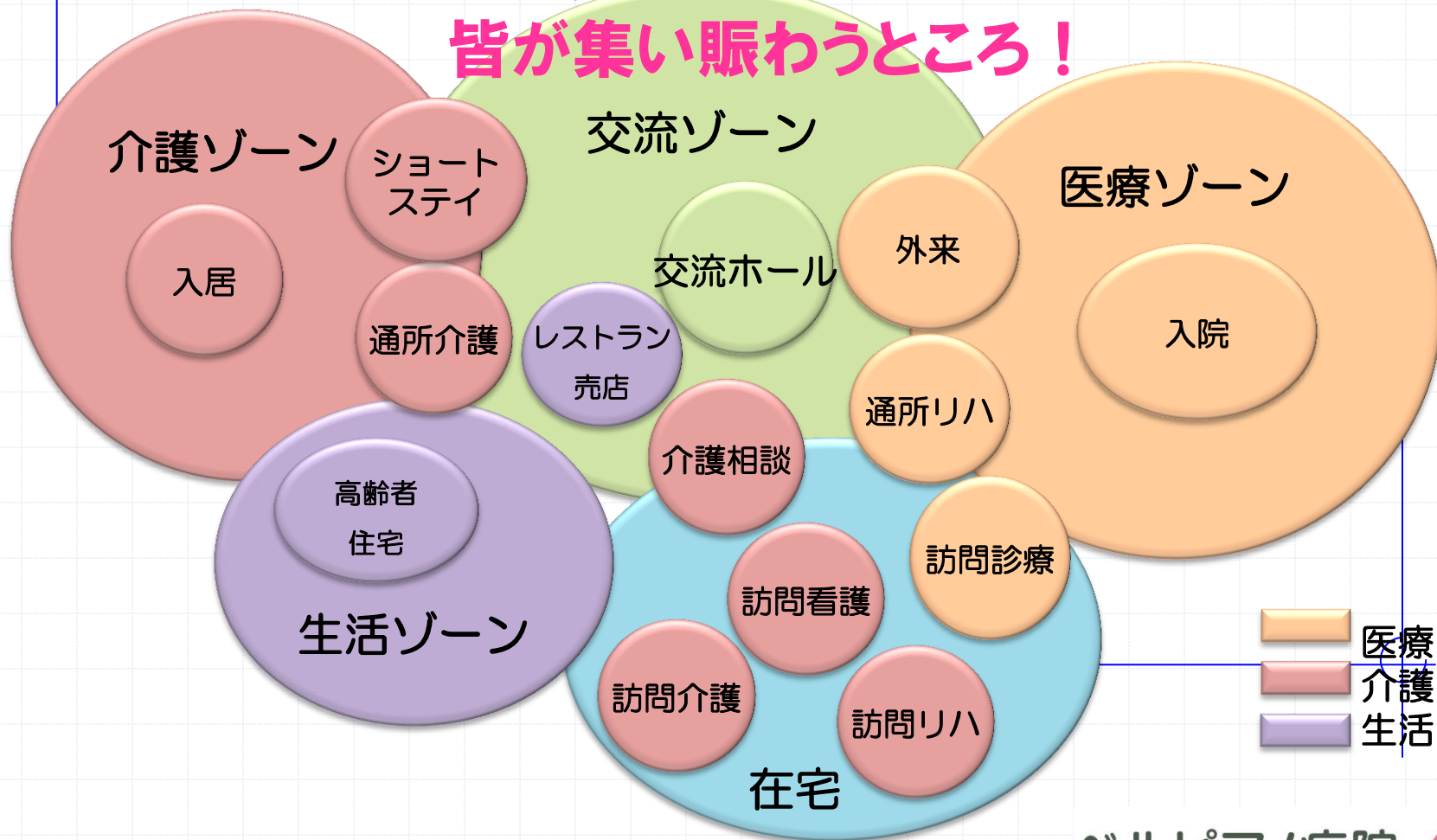




ベルアンサンブル構想

高齢者の医療・介護・住まい・交流の総合拠点を目指す

皆が集い賑わうところ！

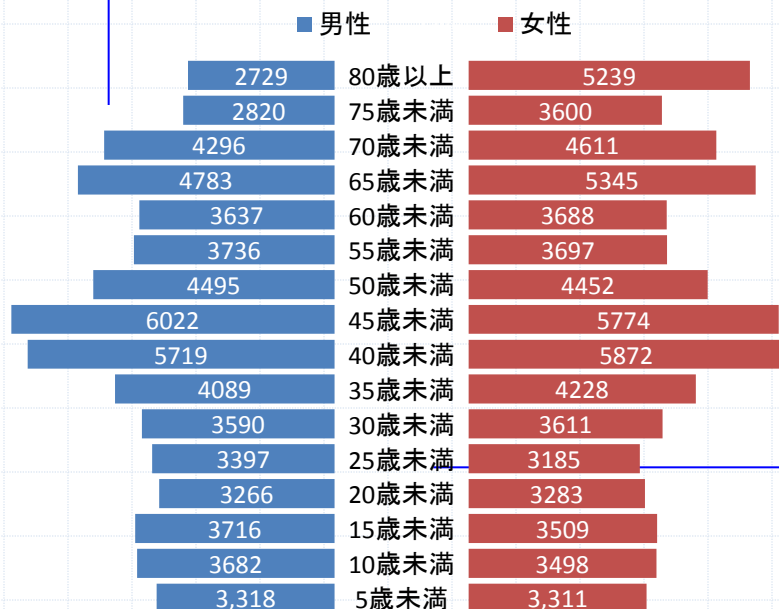




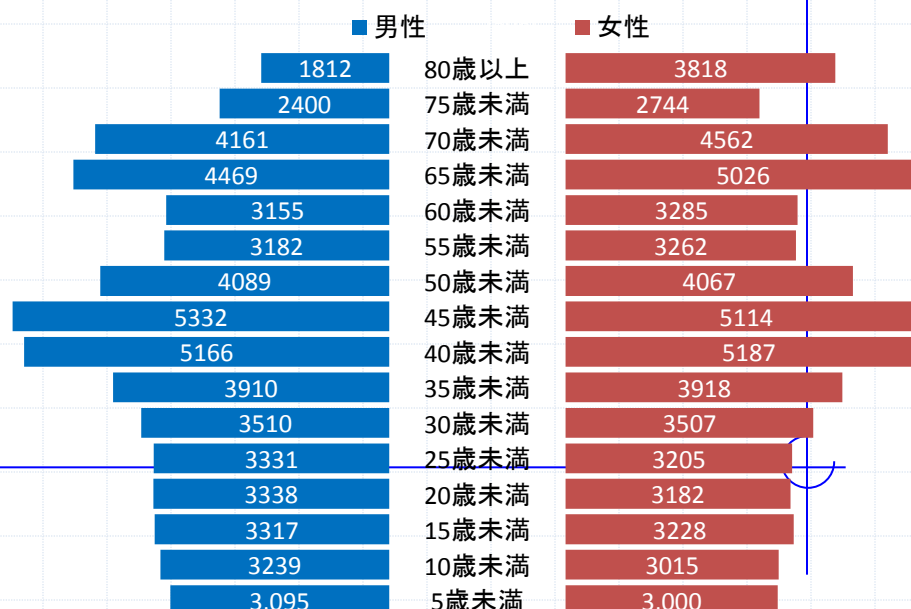
地域の現状

	西区	中区	合計	堺市
人口	138,335	125,149	263,484	850,363
65歳以上	31,432	27,020	58,452	202,266
高齢化率 (%)	22.7	21.6	22.2	23.8

西区 人口統計



中区 人口統計



地域の現状



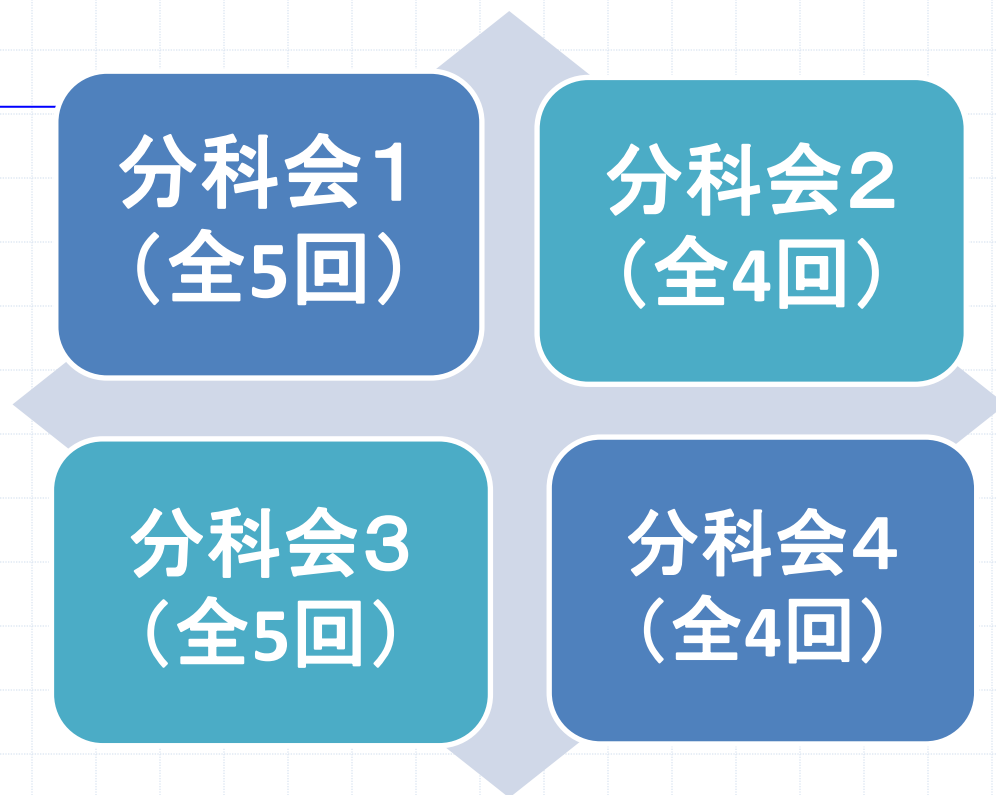
		西区	中区	合計	堺市
人口		138,335	125,149	263,484	850,363
65歳以上		31,432	27,020	58,452	202,266
高齢化率 (%)		22.7	21.6	22.2	23.8
施設数	療養型病院(病床数)	2 (246)	2 (276)	4 (522)	23 (4163)
	診療所(内在支診)	93 (24)	56 (14)	149 (38)	585 (135)
	歯科診療所	69 (5)	49 (4)	118 (9)	412 (49)
	保険薬局	47 (47)	36 (32)	83 (79)	264 (268)
	訪問看護ST	12	14	26	73
	通所介護	42	35	77	238
	通所リハビリ	5	2	7	25
	ケアプランセンター	57	47	104	348
	訪問介護ST	78	77	155	441

構成表

[illegible]



～分科会詳細～



◆各分科会 4～5回開催し、合計**18**回開催

◆外部委員 **42** 名 ・ 内部委員 **25** 名の参加



事務局の活動として...

- 各分科会に付随する事務業務
- 大阪府内拠点事業意見交換会
(行政・淀川キリスト病院・東成区医師会・ベルピアノ病院)
- あおぞら診療所在宅医療連携拠点事業意見交換会参加
- 『堺市医師会』『薬剤師会』『CCコネット』『民生委員会』への
拠点事業の説明
- 都道府県リーダー研修
- 近畿ブロック在宅医療連携拠点事業活動発表会
- コラボレーション演習 (全3回)
- 在宅医療連携拠点事業成果報告会 (3/23予定)
- 日本在宅医学会大会 (3/30, 3/31予定)
- 報告書提出(厚生労働省 4/15〆切)





分科会1

多職種連携の課題に対する解決策 の抽出

多職種連携の課題に対する 解決策の抽出



- ✓ 多職種における「連携」についての意識調査
 - ✓ 職種間の差異
 - ✓ 所属する施設による差異
 - ✓ 大阪府立大学で解析
- ✓ 連携についての問題点をアンケート調査
 - ✓ 問題点について小グループでの
focus group discussionで
解決策を抽出





在宅医療連携についての意識調査

✓ 各所属機関の全専門職に調査票を配布

✓ 回収数は1081通、有効回答率92%

✓ 解析項目

✓ 基本属性

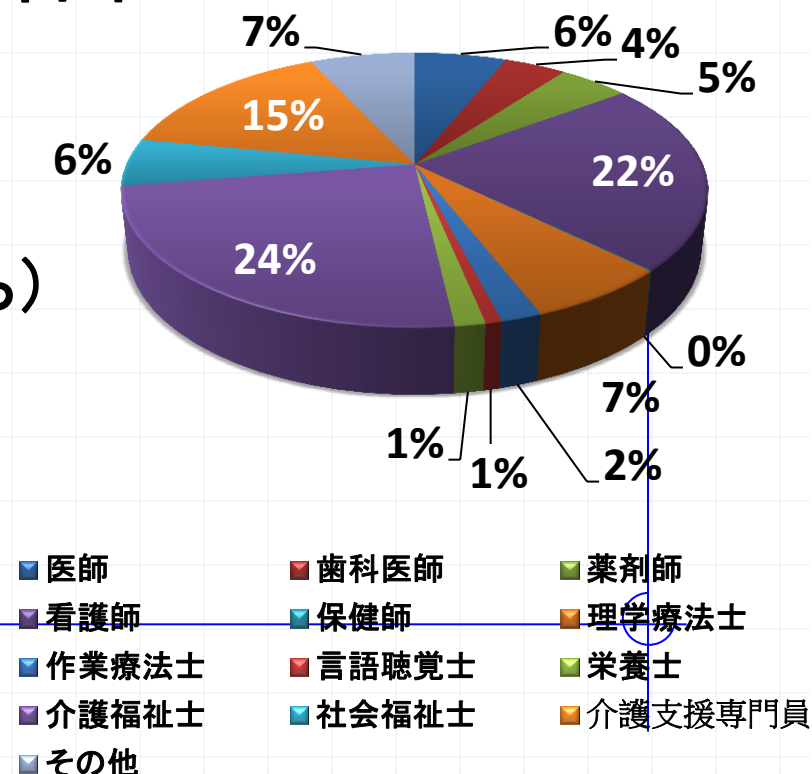
✓ 連携活動評価尺度(筒井ら)

✓ 多職種連携の経験

✓ 多職種連携に対する考え

✓ 連携のとりやすい職種

✓ 連携のとりやすい理由



分類

質問項目

情報共有

関連機関に報告

サービスの把握

他機関から情報収集

他機関・他職種への提言

業務協力

協力要請するか

協力要請されるか

他の専門職の会議に参加

他機関の業務内容

他機関の専門職

関係職種との交流

会議参加の呼びかけ

親睦会参加

関連機関へ挨拶回り

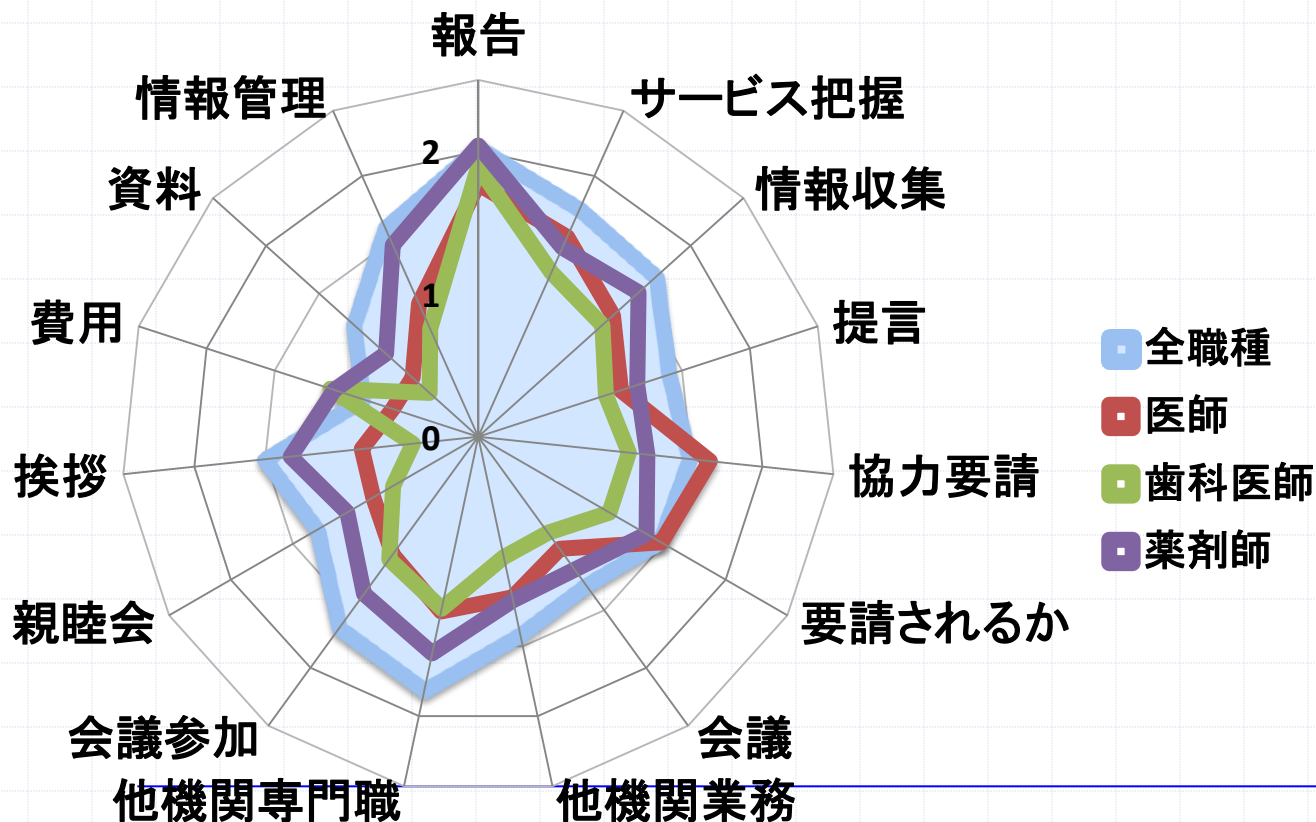
費用負担の決定

連係業務の処理と管理

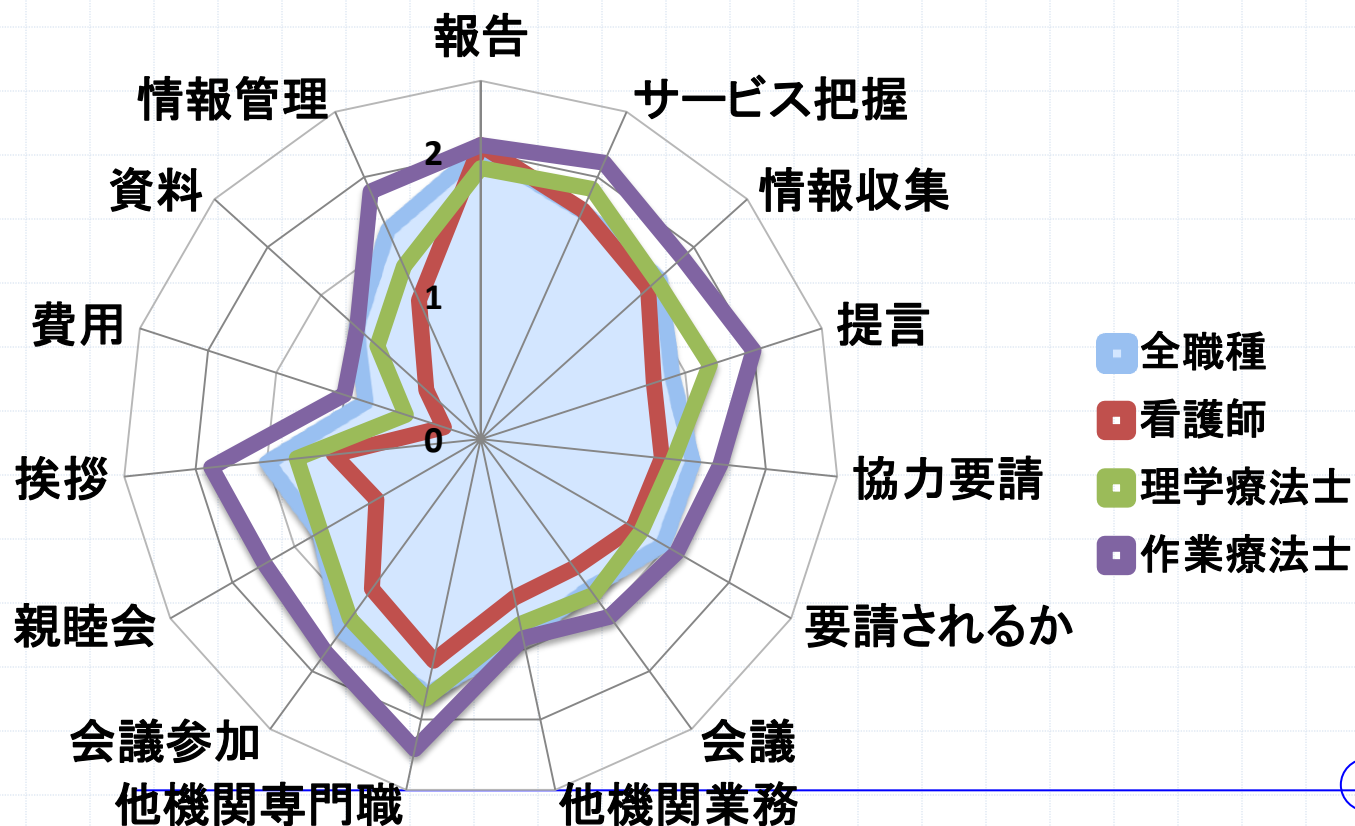
資料配布

情報管理

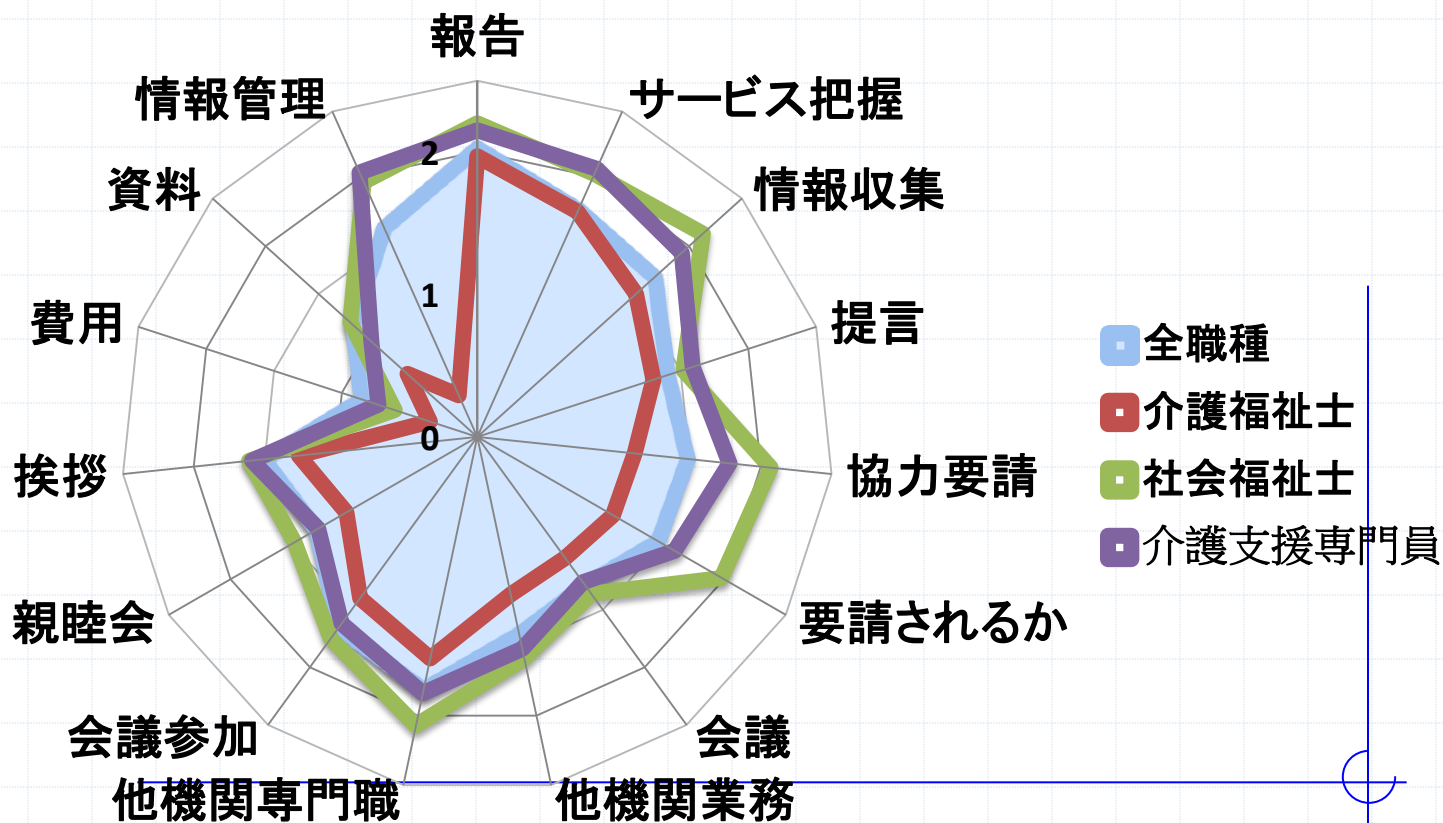
各職種別の連携活動評価尺度



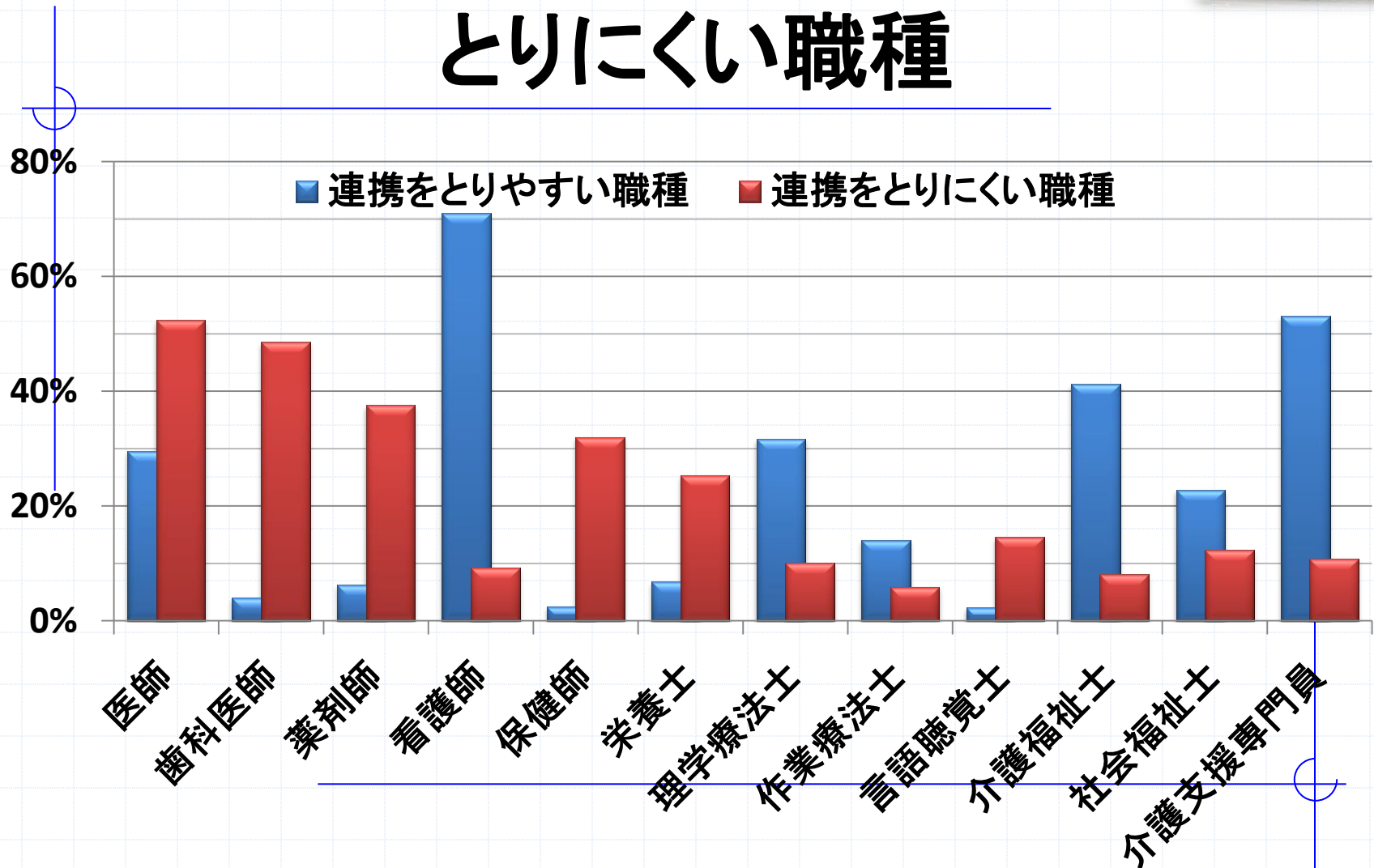
各職種別の連携活動評価尺度



各職種別の連携活動評価尺度



連携をとりやすい職種、 とりにくい職種

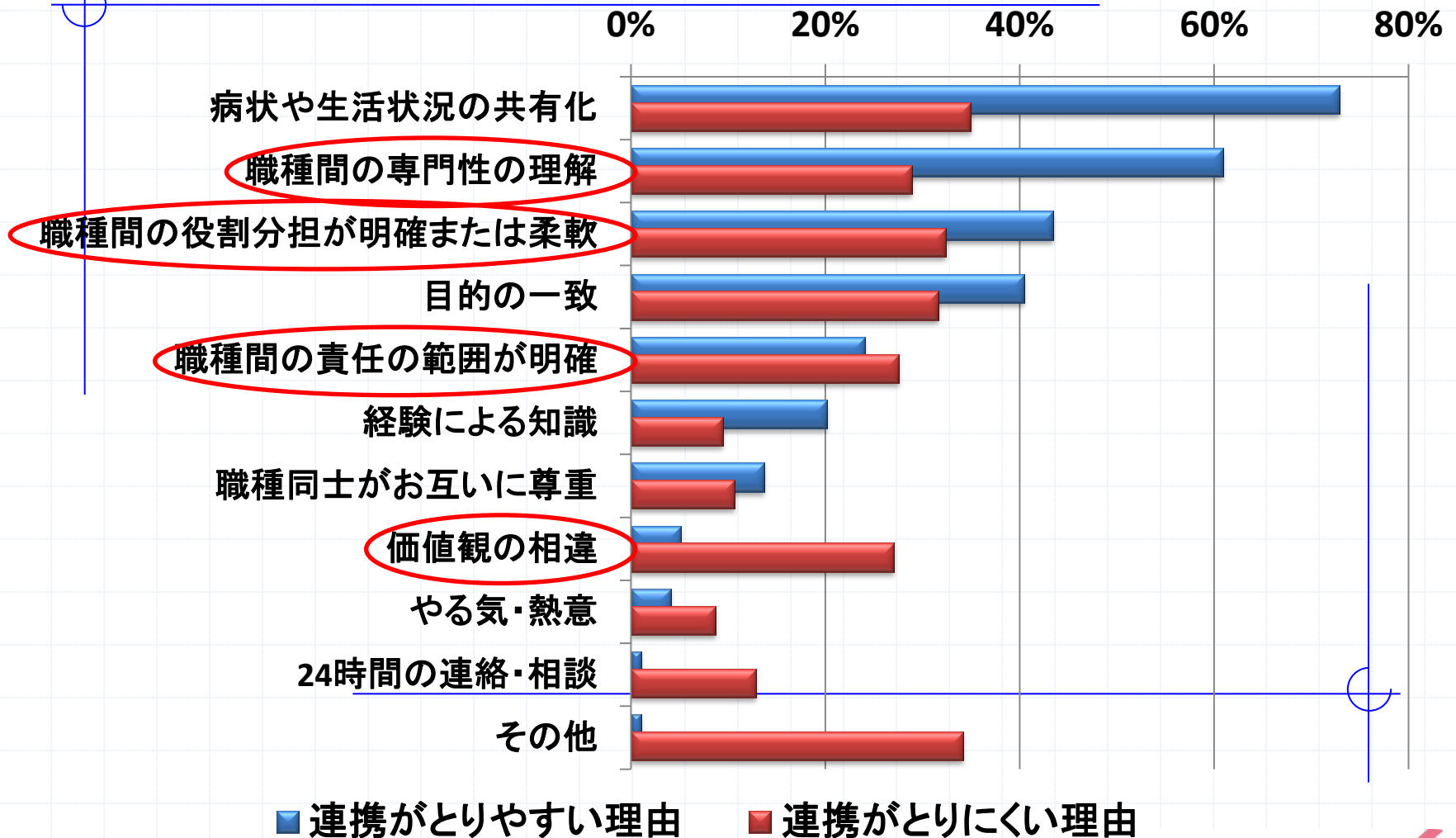


回答数 1,081

ベルピアノ病院



連携がとりやすい理由、 とりにくい理由



Focus group discussionの結果



- 医師

(Focus) ・緊急時の対応

→病状変化と急変状態を
明確にする。

・情報共有について →在宅医療情報システムを
医師会で検討。

- 歯科医師

(Focus) ・訪問歯科の認知度が低い →歯科医師自身の
意識の向上。

・他科医師との情報共有 →相互理解。



Focus group discussionの結果



- 薬剤師

(Focus) ・訪問薬剤指導の体制不足 →会営薬局の機能強化
(調剤薬局のサポート)

・制度の認知不足 →訪問看護や介護支援専門員
との連携強化

・情報の共有化 →お薬手帳の活用方法
(残薬管理・内服状況等) 見直し

Focus group discussionの結果



- 三師会以外

- ・情報共有の不足 → 利用者を中心とした援助意識

- ・各職種とのコミュニケーション不足

- 顔の見える関係作り





分科会2

在宅医療従事者の負担軽減の支援

在宅医療従事者の負担軽減の支援



- ✓ 地域におけるレスパイト機能
 - ✓ レスパイト入院についてアンケート調査（訪問看護事業所対象）
 - ✓ 解決策の検討
 - ✓ 情報を集約できるシステムが必要
 - ✓ 医療機関、施設の受け入れ基準の明確化
- ✓ 24時間体制の確保
 - ✓ 急性期病院・療養型病院・在宅医の連携
 - ✓ 急変回避を目指しての取り組み
- ✓ 情報共有システムの構築
 - ✓ 入院時連携シート他現状の様式の定着化



レスパイト入院の現況調査 1



堺市西区・中区の29か所の訪問看護ステーションへ依頼

17か所から回答

レスパイト目的での入所・入院が必要と思われる患者の数

149名

レスパイト入院が必要と思われる患者数

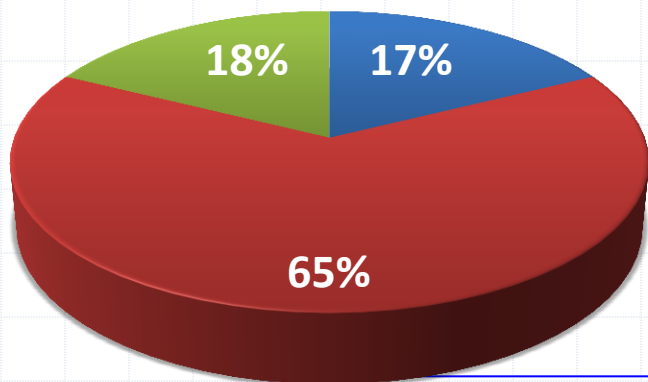
45名

レスパイト入院の現況調査 2



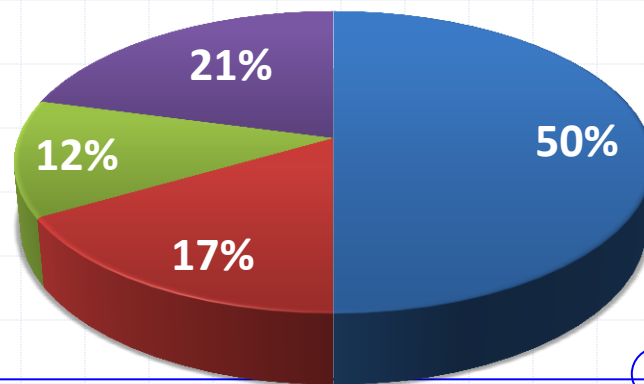
堺市内でレスパイト受け入れ病院の数は充足しているか

■ 思う ■ 思わない ■ 無回答



介護施設でレスパイトできない理由

■ 人工呼吸器 ■ 経管栄養
■ 点滴 ■ その他



(精神疾患、認知症の不穏状態など)

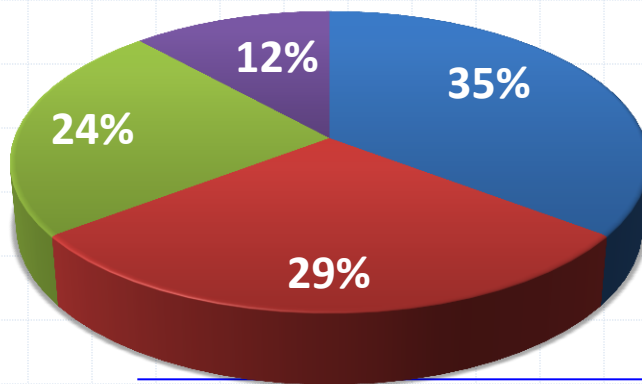


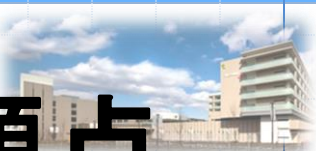
レスパイト入院の現況調査 3



・レスパイト入院の手配を
主に誰がするか

■ 訪問看護師 ■ ケアマネージャー
■ 家族 ■ 主治医





地域のレスパイト入院の問題点

- ✓ 受入れをしている病院数は多くあったが、受け入れ可能な病院の情報が周知されていないため、必要時にレスパイトができない現状があり、充実していると思われていない。
- ✓ 介護保険施設などでは、医療依存度の高い利用者は利用できていない。
- ✓ 各病院の相談窓口が統一されていない。
- ✓ 医療ニーズの高い認知症・精神疾患者の受入れが、医療・介護施設とも困難であった。





アンケート結果からの今後の課題

- ✓ 地域におけるレスパイト入院受入れに関する情報の一元化
- ✓ レスパイト入院受入れ体制の構築
 - ✓ 依頼受入れから退院までの体制構築、クリニカルパス使用などによる受入れ側の負担軽減
- ✓ 国の施策としてのレスパイト入院受入れ促進
 - ✓ レスパイト入院に対する診療報酬上の評価
 - ✓ 介護福祉士の喀痰吸引内容の実用性の見直し

24時間体制の構築の問題点



- ✓ 連携病院は複数の診療所との連携が必要
 - ✓ 病院と診療所とのグループの構築
 - ✓ 情報共有のシステムが必要
- ✓ 急変時の対応
 - ✓ 「急変」の考え方の統一、「急変」の回避
 - ✓ 急性期・療養型病院の役割の明確化



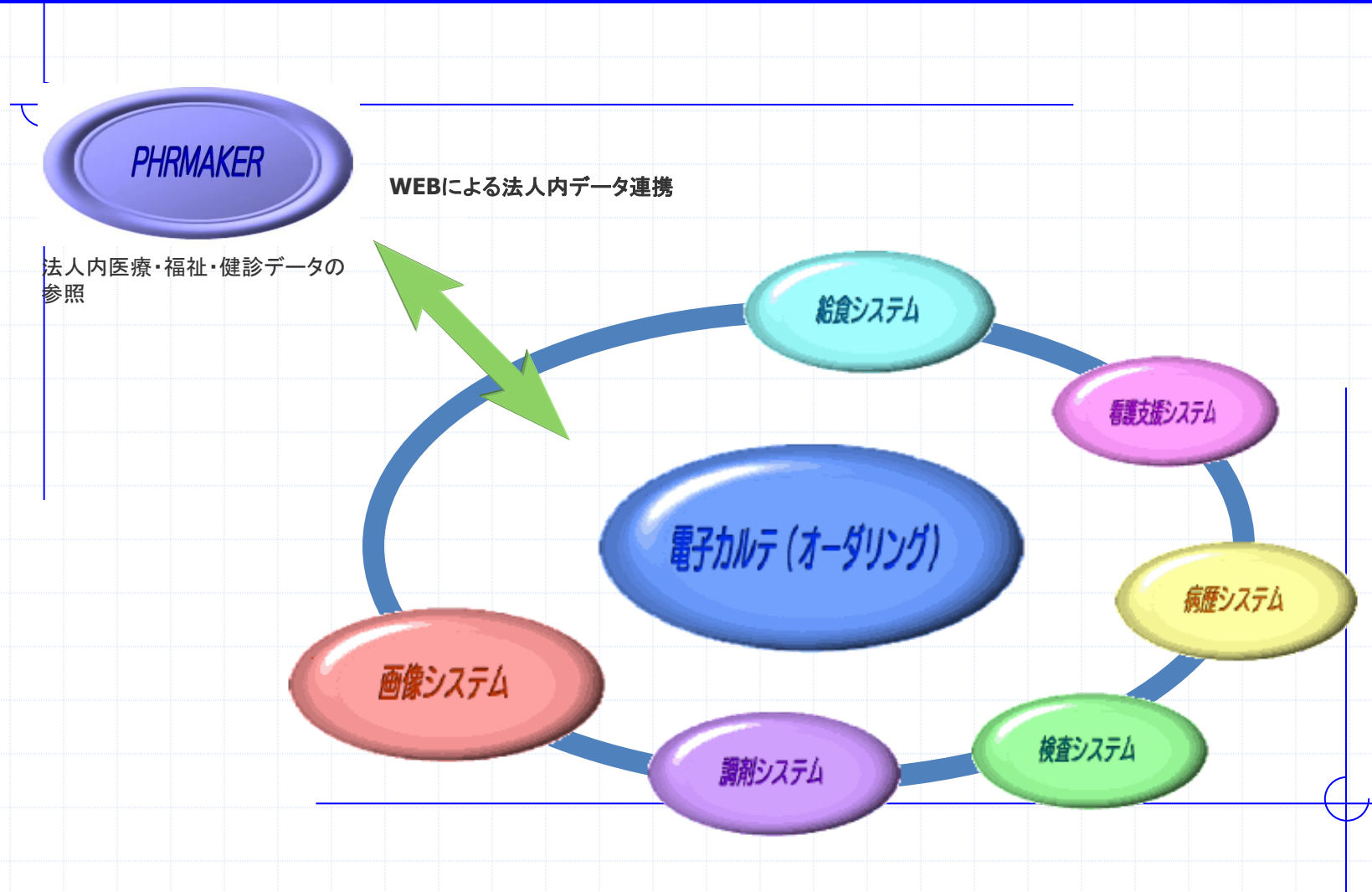
情報共有における現状の問題点



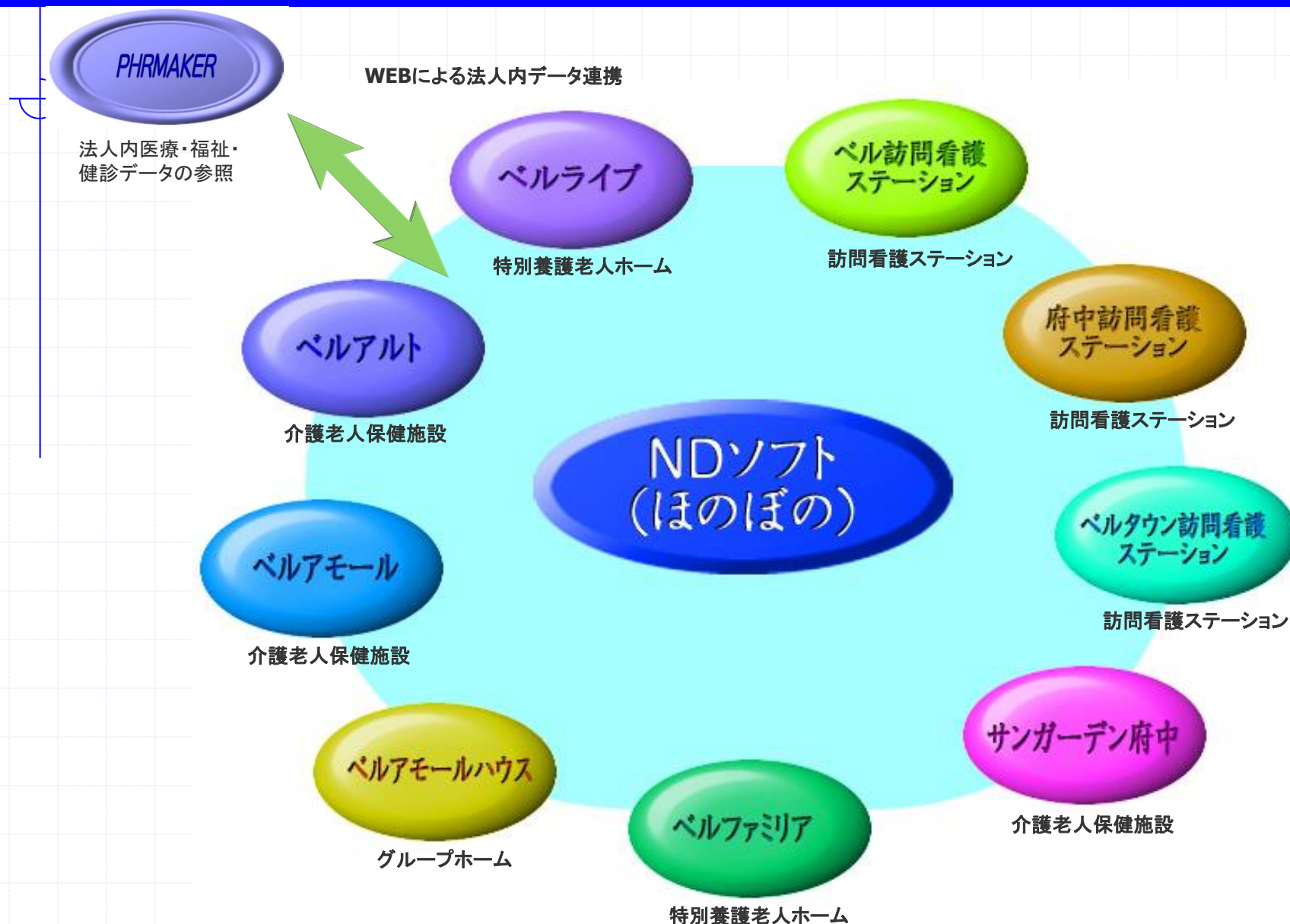
- ✓ 関連機関が明確になっていない
 - ✓ 経営母体の異なる様々な事業所が関係
- ✓ 情報の氾濫
 - ✓ 「医療」と「介護」の共有すべき情報が不明瞭
- ✓ 既存の情報システムの未周知
 - ✓ 最新情報への更新が不十分
 - ✓ 関連機関全体への周知が不十分

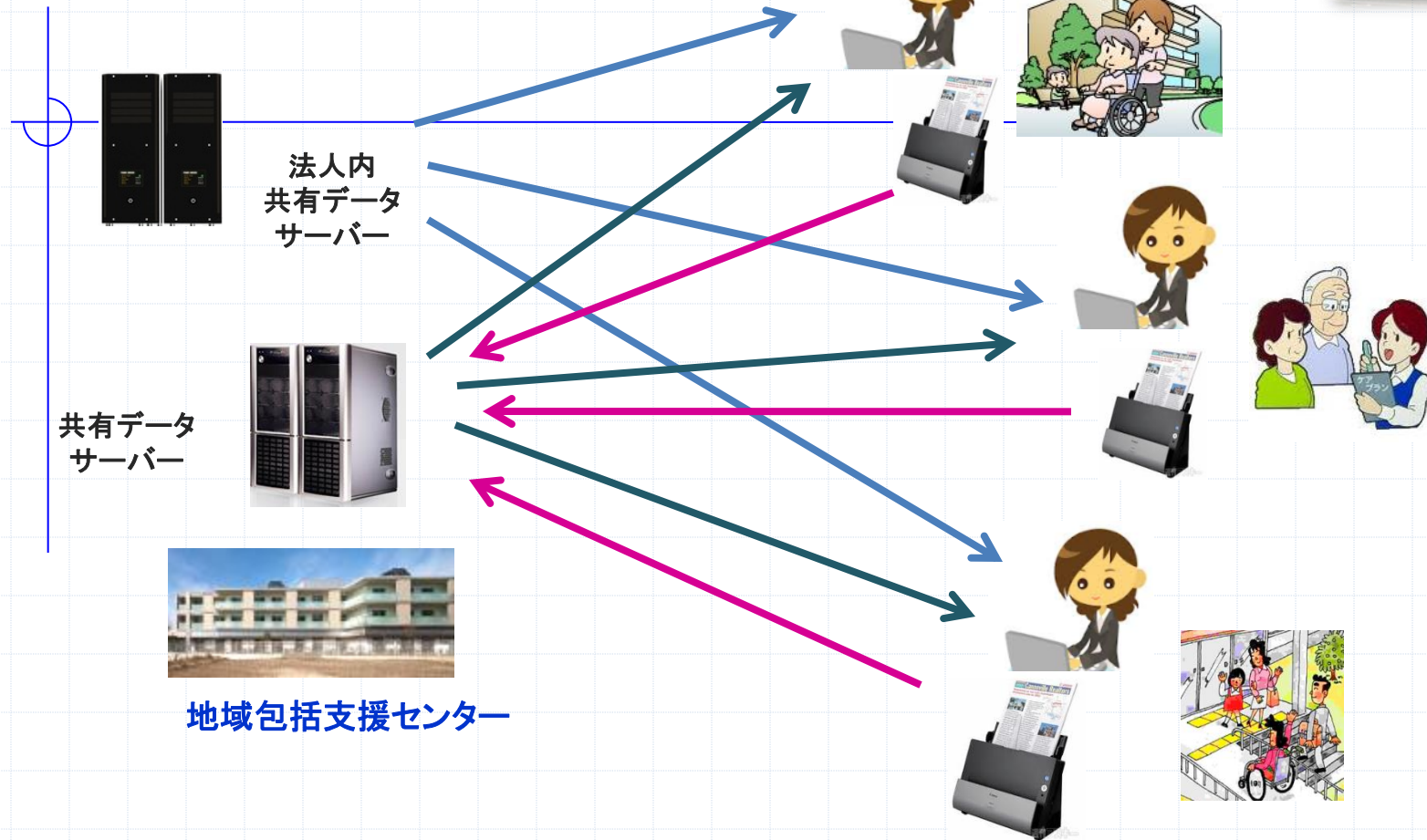


病院系システム



福祉システム





地域包括センターに、共有サーバーを設置し、各事業所のデータを一元管理する。
各事業所データは、システムに依存させないため、スキャナや文書データにて登録する。
各事業所の利用者管理は一元管理できるシステムとする。
各事業所では、共有データ並びに、生長会の医療・福祉データの閲覧が可能なシステムを構築する。
その他、共通する事項については、定形入力フォームの作成も行う。





分科会3

効率的な医療提供のための多職種 連携

効率的な医療提供のための 多職種連携



- ✓ 中区・西区における医療・介護資源のマップと冊子の作成
 - ✓ 冊子は年度末までに完成
- ✓ 事例検討会
 - ✓ 平成24年11月29日に開催
 - ✓ 多職種 合計160名参加
 - ✓ 15のグループで検討



事例検討会の参加者

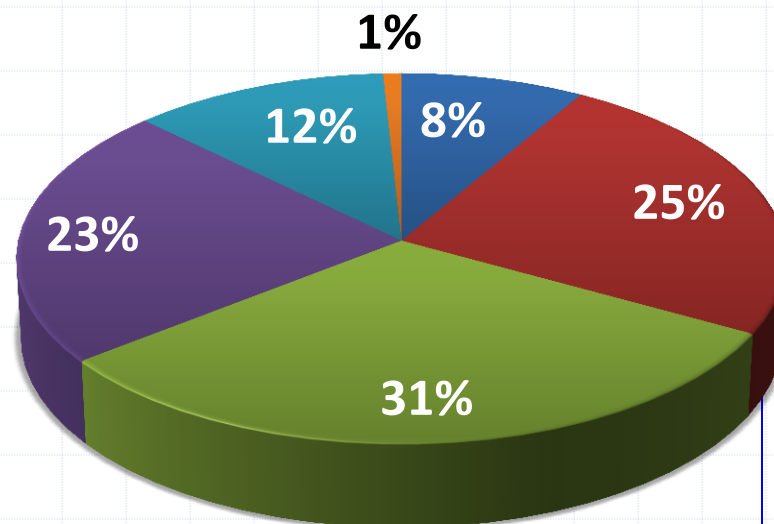
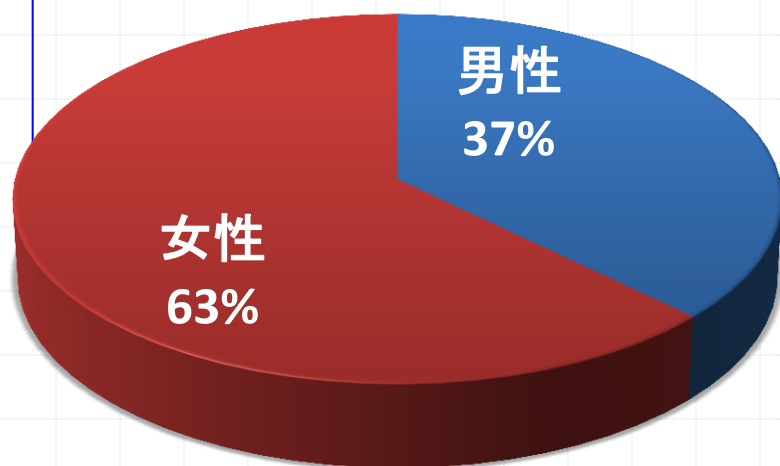


n=160

回答率=73.3%

性別

年齢



■ 20代	■ 30代
■ 40代	■ 50代
■ 60代	■ 70代



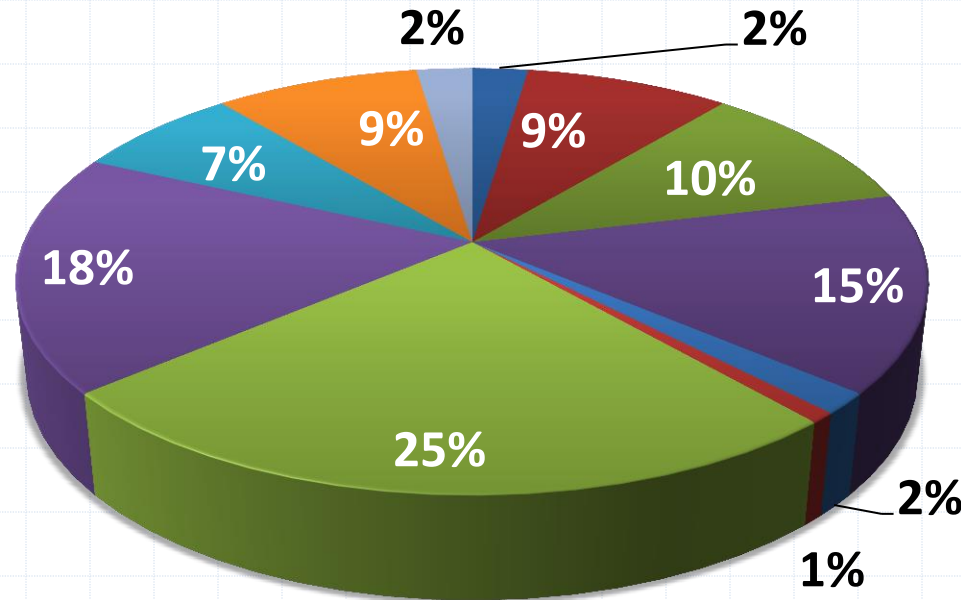
事例検討会の参加者



n=160

回答率=73.3%

職種



■ 医師

■ 歯科医師

■ 薬剤師

■ 看護師

■ 理学療法士

■ 作業療法士

■ 言語聴覚士

■ 栄養士

■ 介護支援専門員

■ 介護福祉士

■ 社会福祉士

■ その他

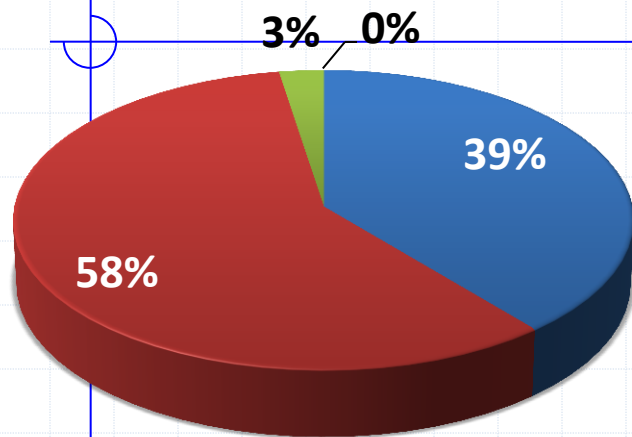
■ 無回答

ベルピアノ病院



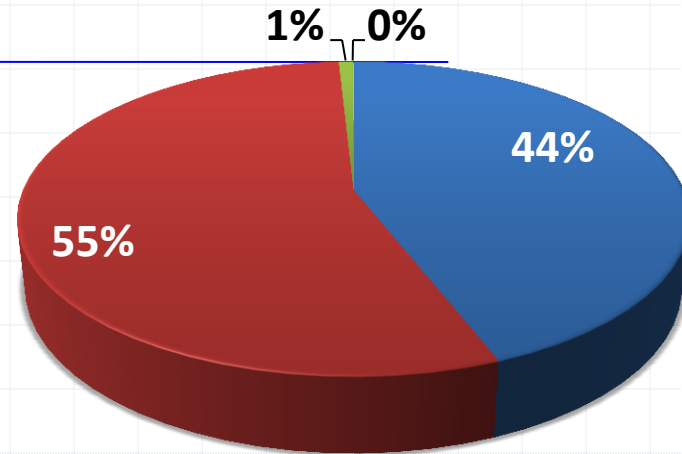


事例検討は満足したか？



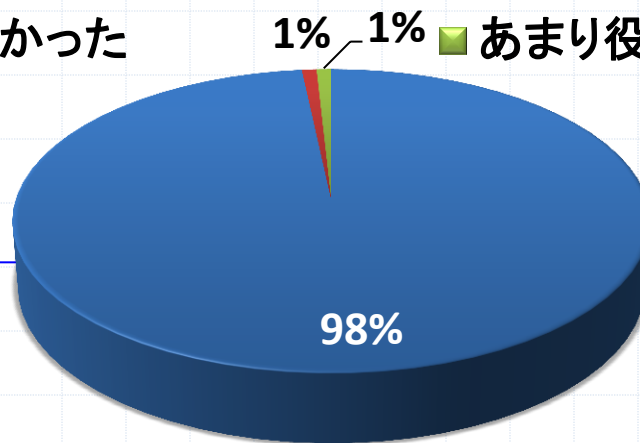
- 大満足
- 満足
- あまり満足できなかった

今後の業務役立つ内容だったか？



- 大変役に立った
- 役に立った
- あまり役に立たなかった

次回このような事例検討会があれば参加しますか？



- 参加する
- 参加しない
- 無回答



～意見・要望～



- ・定期的に開催してほしい
- ・医師の参加も期待する
- ・専門的な研修会も開いてほしい
- ・連携の意識が同じ方向に向いてきていると感じた
- ・薬剤師や歯科医師の意見が聞けてよかった
- ・病棟看護師の意見が参考になった



～職種別の研修内容についての希望～

医師

24時間体制

歯科医師

各職種の役割

薬剤師

連携のとり方

看護師

多職種との連携・医師との連携

介護支援
専門員

医療との連携・多職種との連携・困難事例の対応

介護福祉士

医療との連携・困難事例の対応・認知症の対応

その他

困難事例の対応・各職種の役割



地域における医療・介護資源 ～マップとガイドブックの作成～



医療介護施設
対象に調査を実施

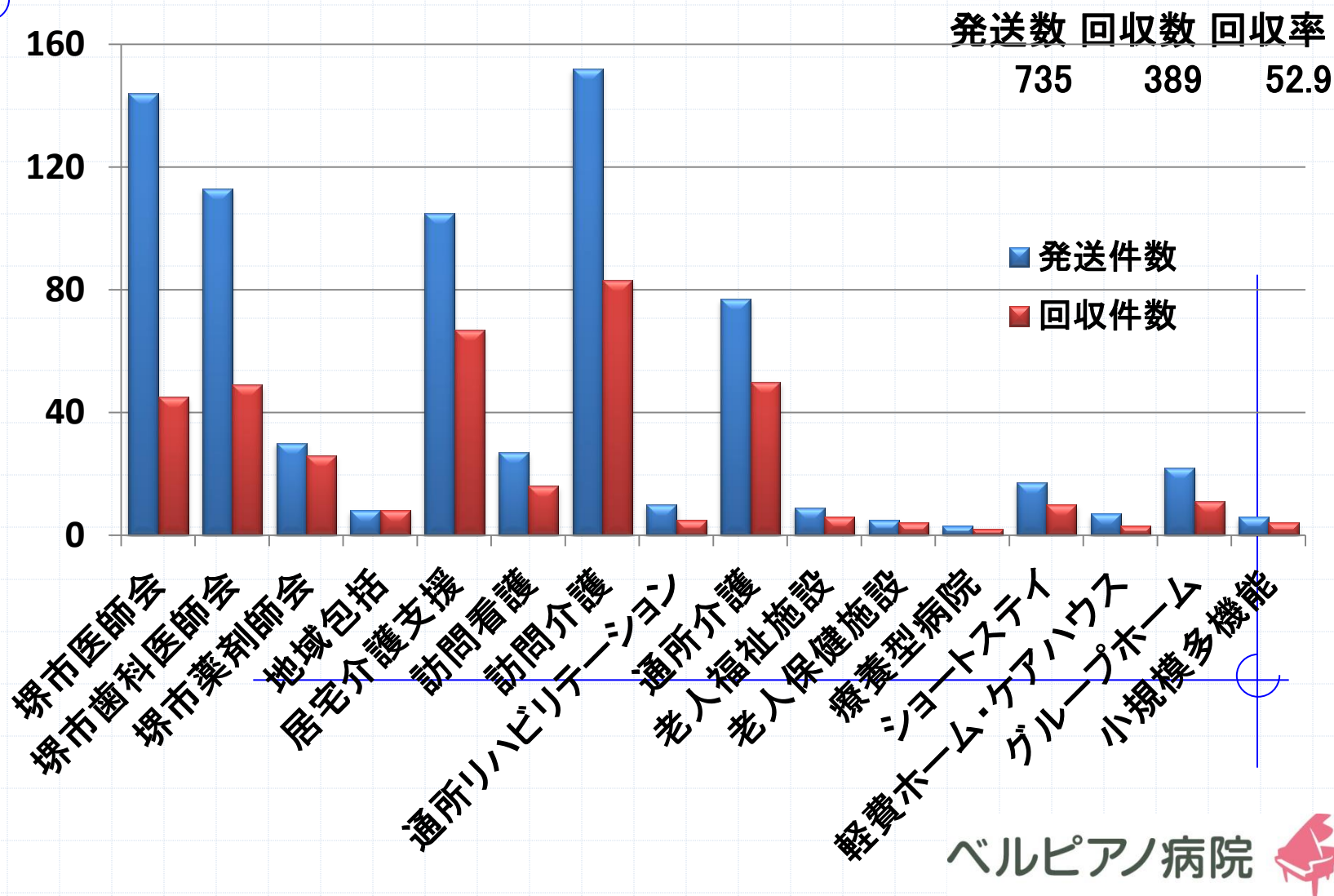
・発送数735
・返信数389
回収率52.9%

ガイドブック
作成





ガイドブック情報回収数



地域における医療・介護資源



～中区・西区の受入れ状況～

次の19項目について分析を行った

- 人工呼吸器
- ストマー
- 酸素療法
- 気管切開
- 胃ろう
- IVH
- 膀胱留置カテーテル
- ターミナル
- 難病
- 障害
- 経鼻栄養チューブ
- 疥癬
- 透析
- 腎ろう
- インスリン注射
- 創傷処置
- 認知症
- 精神障害
- 透析

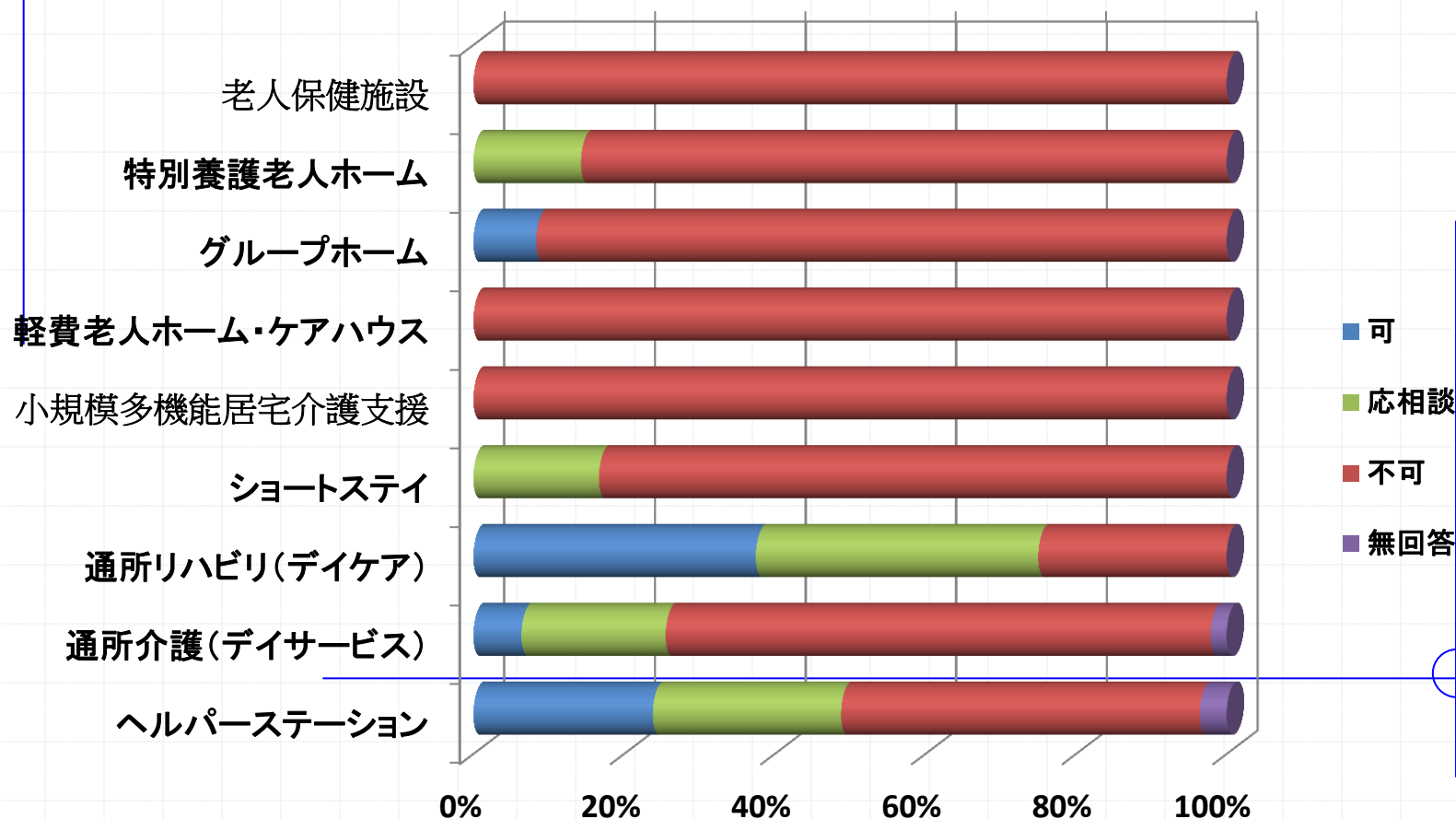


地域における医療・介護資源



～中区・西区の受入れ状況～

人工呼吸器

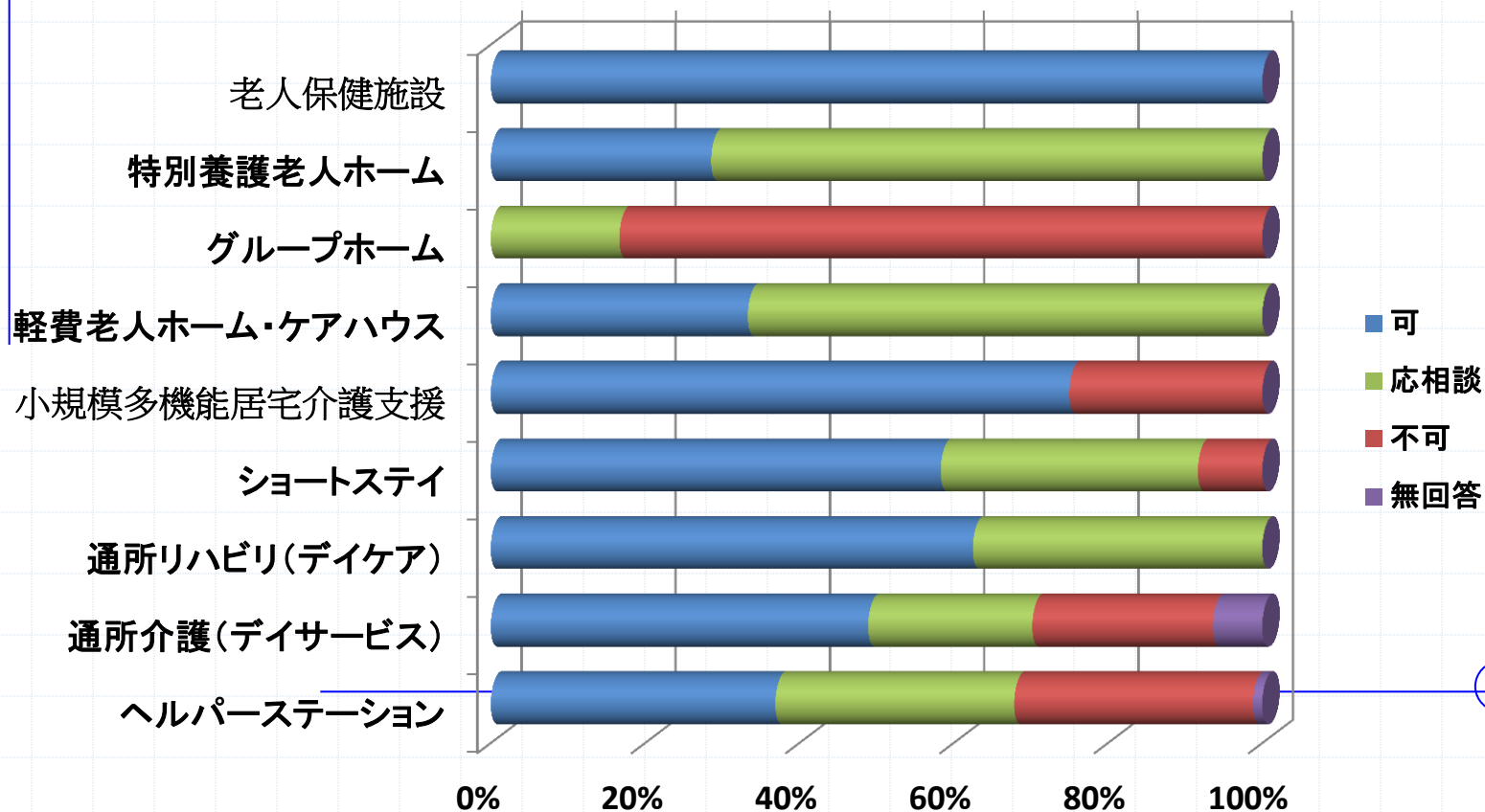


地域における医療・介護資源



～中区・西区の受入れ状況～

胃ろう

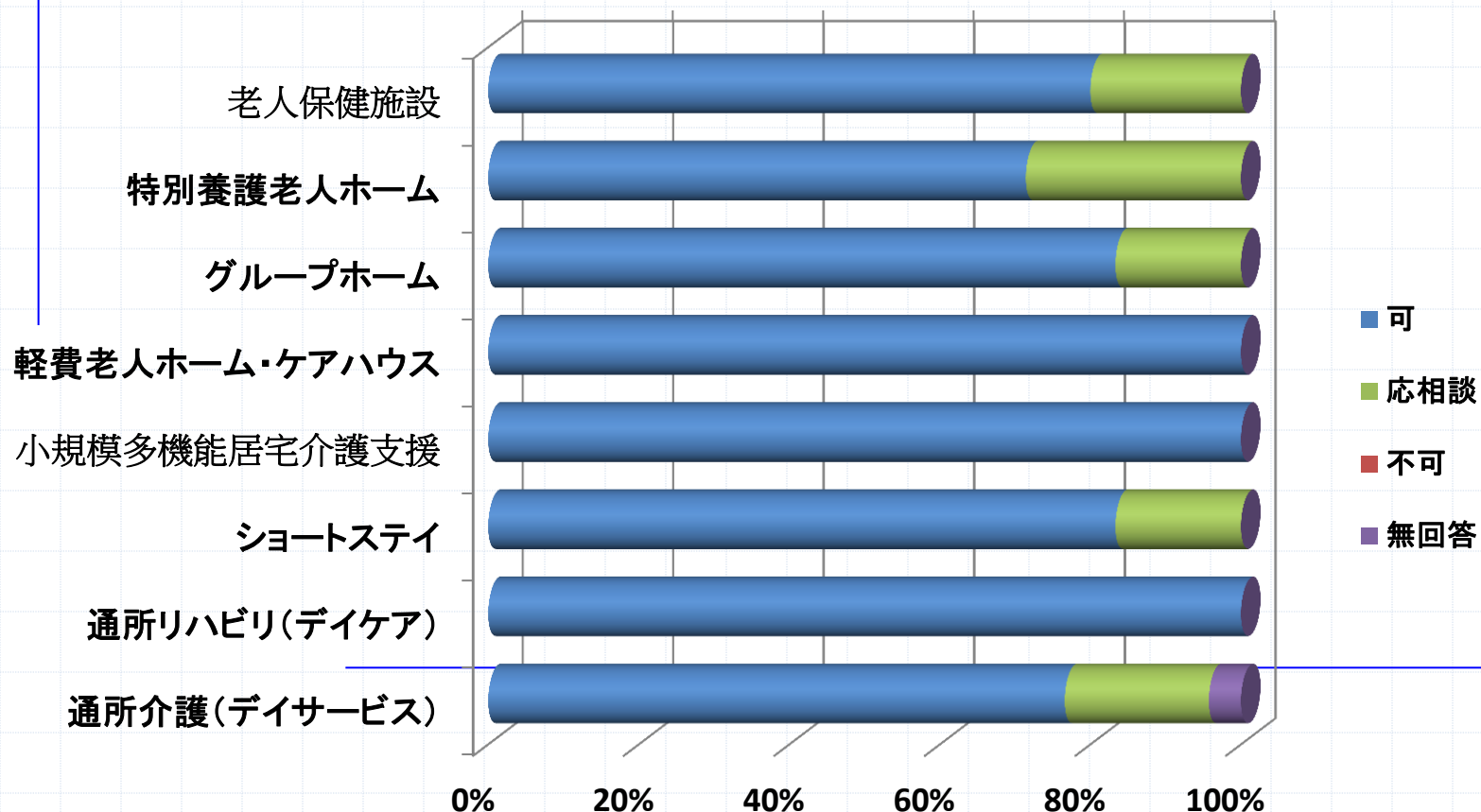




地域における医療・介護資源

～中区・西区の受入れ状況～

認知症

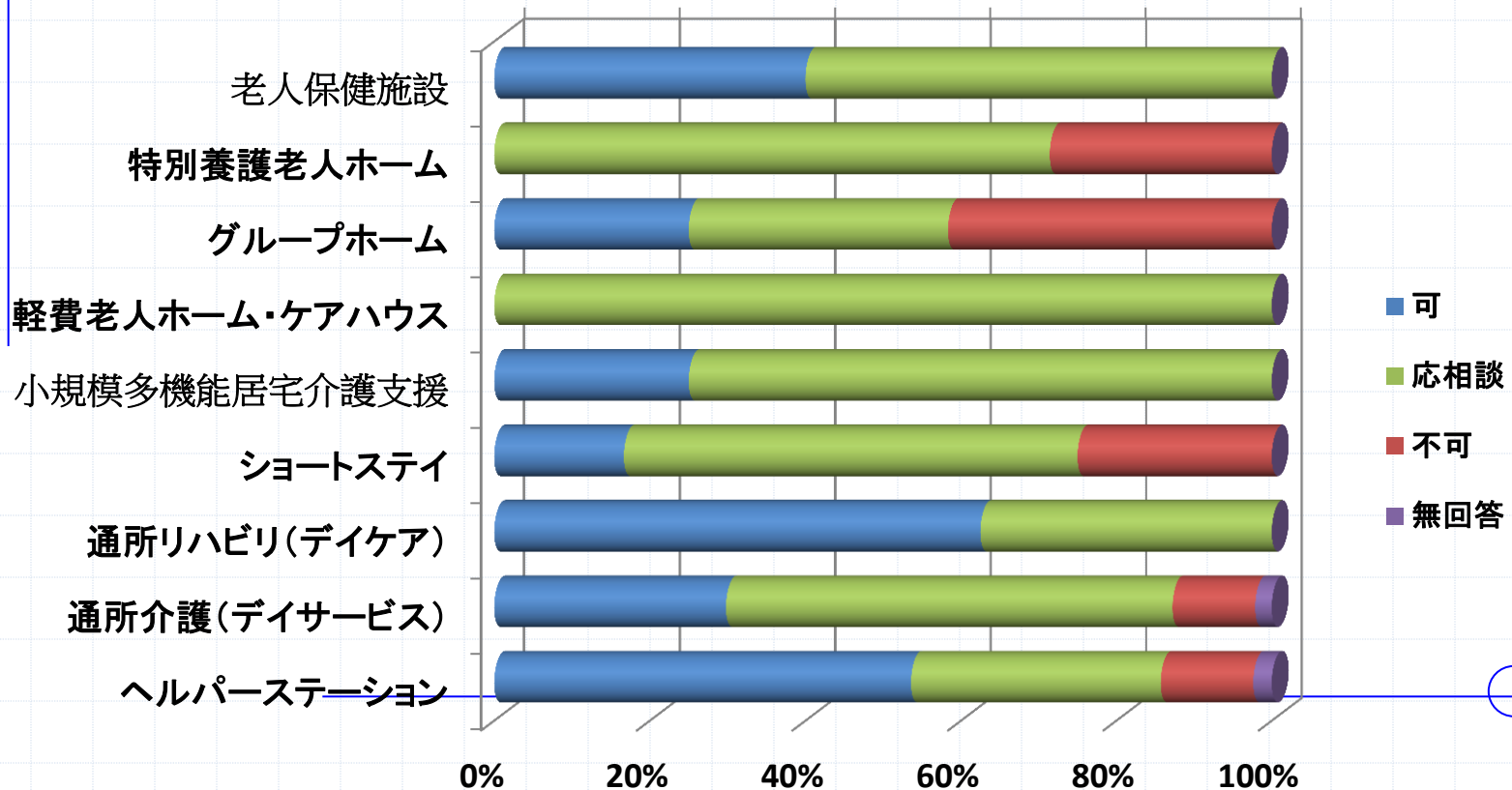


地域における医療・介護資源



～中区・西区の受入れ状況～

難病

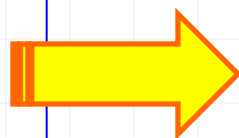


ガイドブックの各項目からみえてくる課題



①介護保険施設では

人工呼吸器・気管切開・IVH・経鼻カテーテル・腎瘻などの受け入れが厳しい状況にある。



**医療機関での受け入れが必要となり
医療との連携、後方支援が必要となる**

②「不可」の要因を分析し、介護保険施設でも医療行為が必要な人の受け入れができるよう人的、物的な環境整備が必要である。

③各項目の「応相談」の内容で分析が必要であり、できる限り「可」にするための対策が必要である。



分科会4

在宅医療に関する地域住民への普及啓発

在宅医療に関する 地域住民への普及啓発



- ✓ 市民向け講演会（平成25年1月29日開催）
 - ✓ 一般市民を含めて約500名参加
 - ✓ 講師 秋山 正子、小山 明子
- ✓ 地域住民の在宅医療についての意識調査
- ✓ ベルアンサンブル健康講座
 - ✓ 西・中区の住民を対象
（15～20名参加）
 - ✓ 在宅医療について意識調査



地域住民向け健康講話

(平成24年10月20日開催)



- ✓ 中区久世 19名参加
- ✓ 健康講話
- ✓ 在宅医療について意識調査
- ✓ 血管年齢測定

⑥ その検査値ほんとに大丈夫??

⑥ ～検査値が教えてくれる
食事の問題点～

2012.10.20 久世校区 地域医療連携事業
社会医療法人 生長会 ベルピアノ病院 栄養管理室 藤岡友美



西区 健康フェスタ

(平成24年11月10日開催)



- ✓ 在宅医療について意識調査
- ✓ アンケート 187件回収



地域住民向け健康講話

(平成24年12月1日開催)



- ✓ 小坂西校区 25名参加
- ✓ 健康講話
- ✓ 在宅医療について意識調査
- ✓ 血管年齢測定

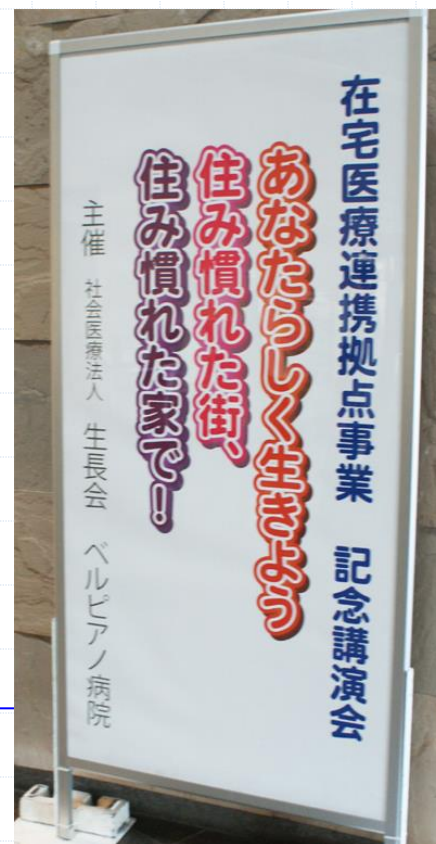


市民向け講演会

(平成25年1月29日開催)

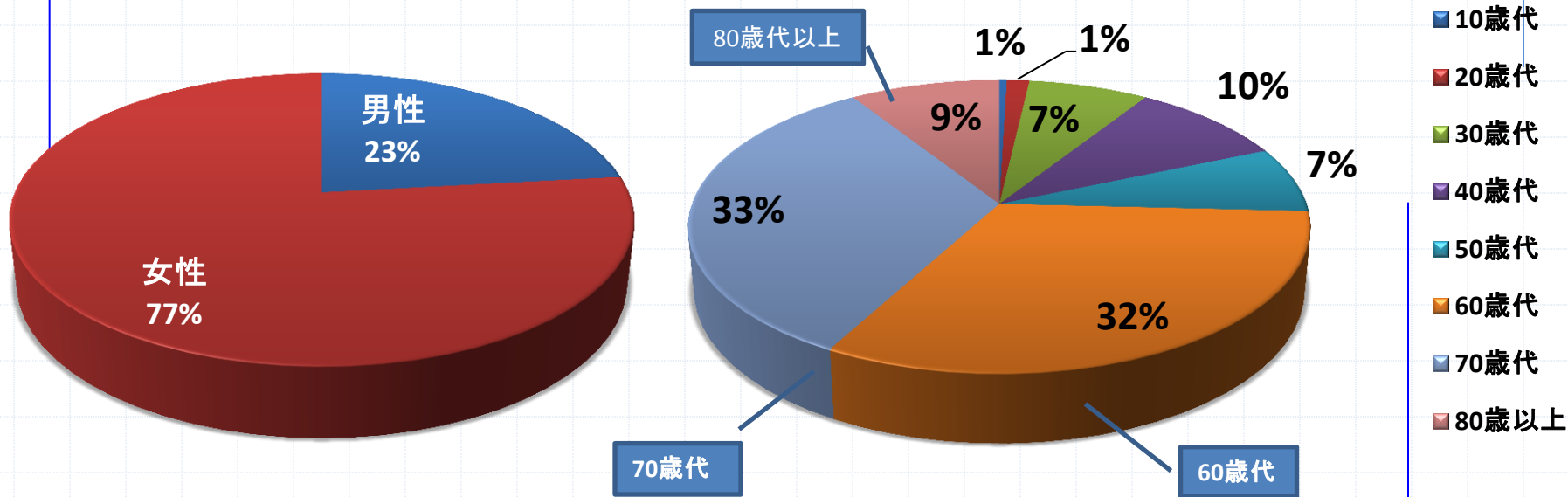


- ✓ 一般市民を含めて約500名参加
- ✓ 講師 秋山 正子、小山 明子
- ✓ 在宅医療についての意識調査





地域住民の意識調査の結果 1



調査対象

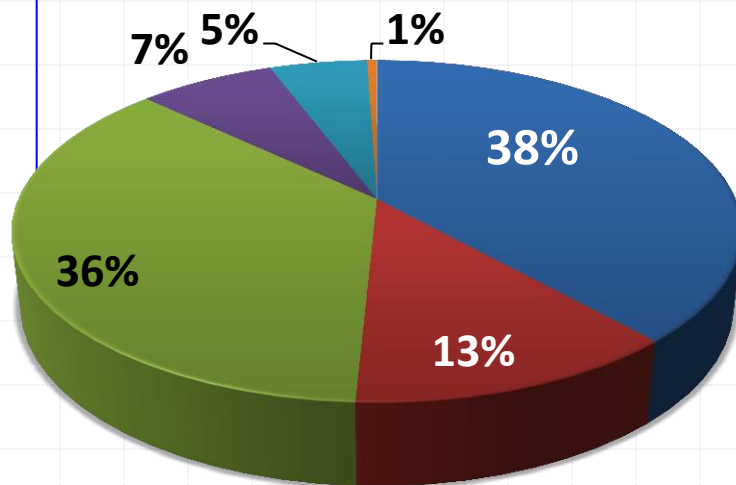
健康講話や健康フェスタなどに参加した 231名

(H24.10.20 11.10 12.1)

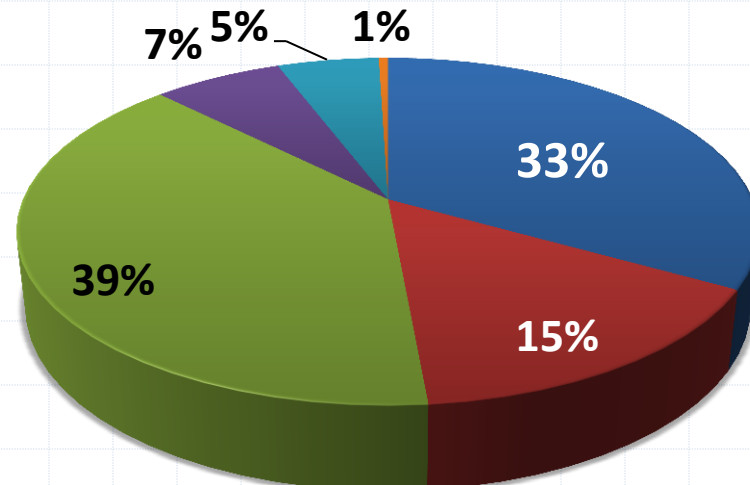


地域住民の意識調査の結果 2

介護したい場所



介護されたい場所



- 自宅
- 介護施設
- 有料老人ホーム

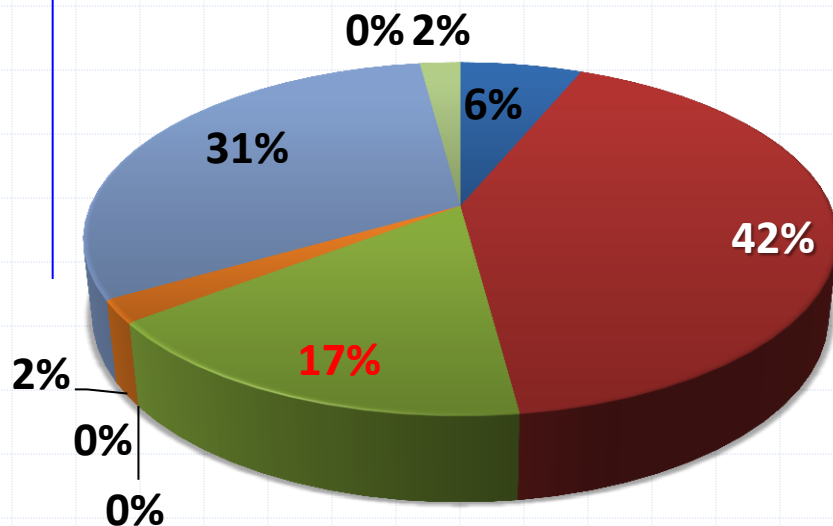
- 病院
- サービス付き高齢者向け住宅
- その他

地域住民の意識調査の結果 3



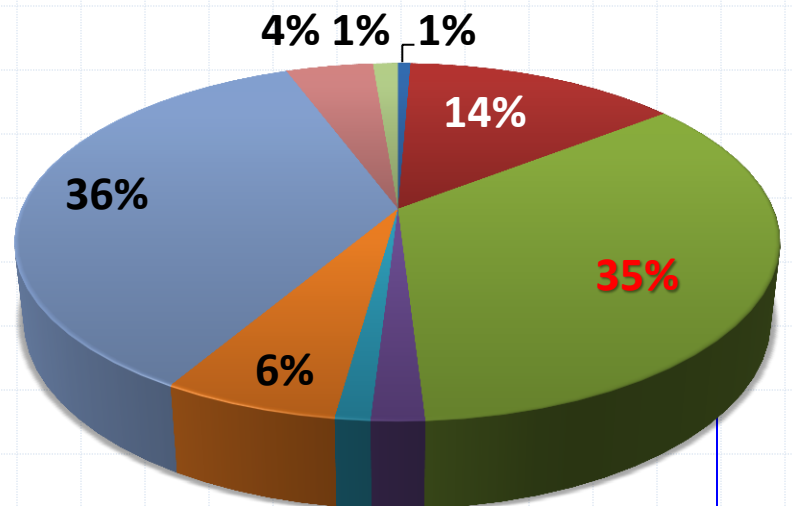
介護してほしい人

男性



n = 52

女性



1% 2%

n = 172

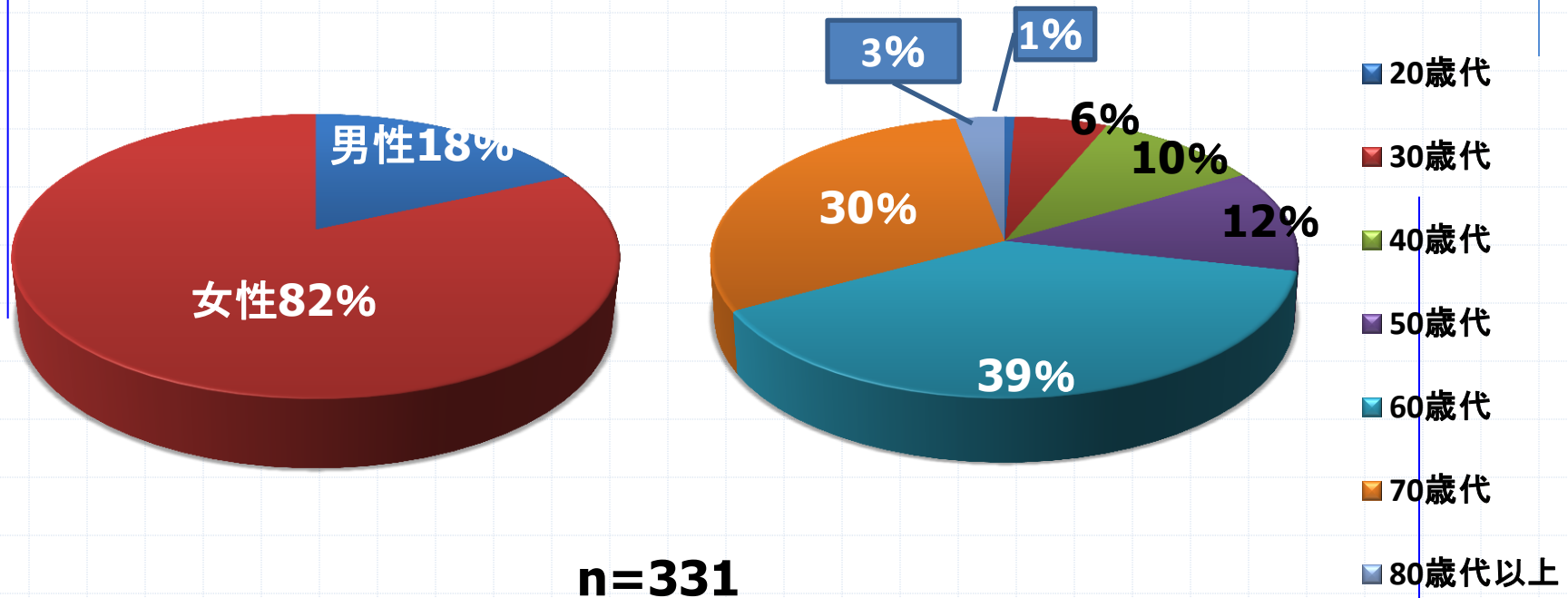
- 親
- 子供
- 親戚
- 介護施設の職員

- 配偶者
- 兄弟
- 病院の職員
- 在宅のスタッフ





地域住民の意識調査の結果 4

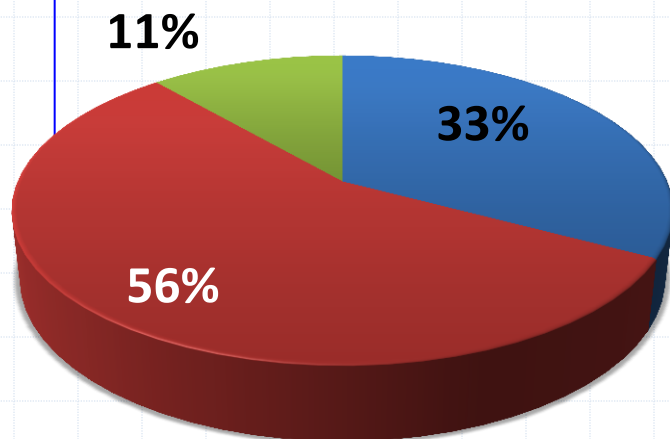


平成25年1月29日 記念講演会アンケートより

地域住民の意識調査の結果 5

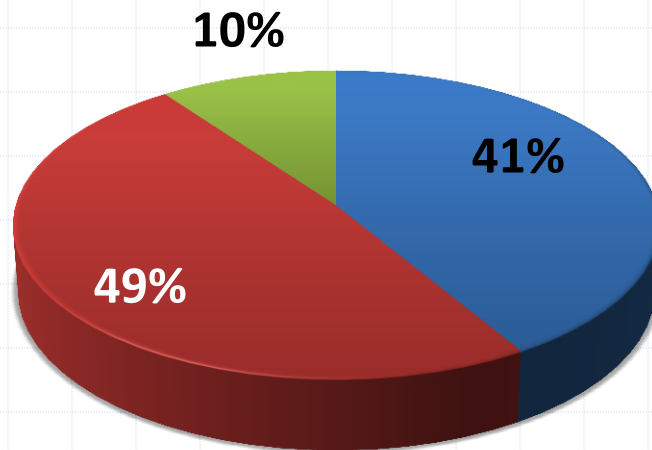


介護したい場所



n=317

介護されたい場所



n=319

- わからない
- 最後まで自宅
- 自宅以外

平成25年1月29日 記念講演会アンケートより



地域住民の意識調査の結果 6



- ✓ 今まで在宅は考えていなかったが、今後は在宅のことを考えていこうと思っています。
- ✓ 在宅でも亡くなることもできるという事例がいくつもあり、今後いろんな面で希望が持てました。
- ✓ 家で生涯を終えたいという人や家族を社会が認めていく風潮が必要と感じました。
- ✓ 地域包括支援センターなどは宣伝が不足している。どこで聞いたらよいか。
- ✓ 医療と介護の連携、多職種との共働作業でお互いを認め合うことが地域と医療と介護のネットワークと思います。



課題と今後の取り組み

- ✓ 地域包括支援センターや行政機関と連携しながら
在宅医療をもっと知っていただく
⇒呼吸器や酸素など医療ニーズの高い方でも訪問
診療・看護、介護支援専門員、地域包括支援セン
ター等の連携によりご自宅で過ごして頂く事が可
能
- ✓ 一般市民向けの講演会開催
- ✓ 自治会館等での地域住民向け健康講話開催
- ✓ 健康フェア開催





在宅医療に従事する人材の育成

在宅医療に従事する人材の育成



✓ 都道府県リーダー研修

- ✓ 平成24年度多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業
- ✓ 国立長寿医療研究センター主催 10/13-14
- ✓ 大阪府開催地域リーダー研修 平成25年3月17日

✓ 従事者向け研修

- ✓ コラボレーション演習: 大阪府立大学
 - ✓ 2-3月に3回シリーズで開催予定(14名参加)
- ✓ ケアマネージャー向け医学講座
 - ✓ 2月より開始

コラボレーション演習



✓ 講師：大阪府立大学 地域保健学域
教育福祉学類 山中 京子教授

✓ 参加者：8職種各3名 合計24名

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・理学療法士・
社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員

✓ 3グループでのグループワーク

✓ 3回シリーズで実施(2/27・3/13・3/18)



コラボレーション演習



【ミニレクチャーの内容】

- ✓ 連携・協働に関する概念の整理
- ✓ 連携・協働の意義
- ✓ 連携・協働のプロセス、メリット、デメリット
- ✓ 葛藤のマネジメント
- ✓ コミュニケーションの方法

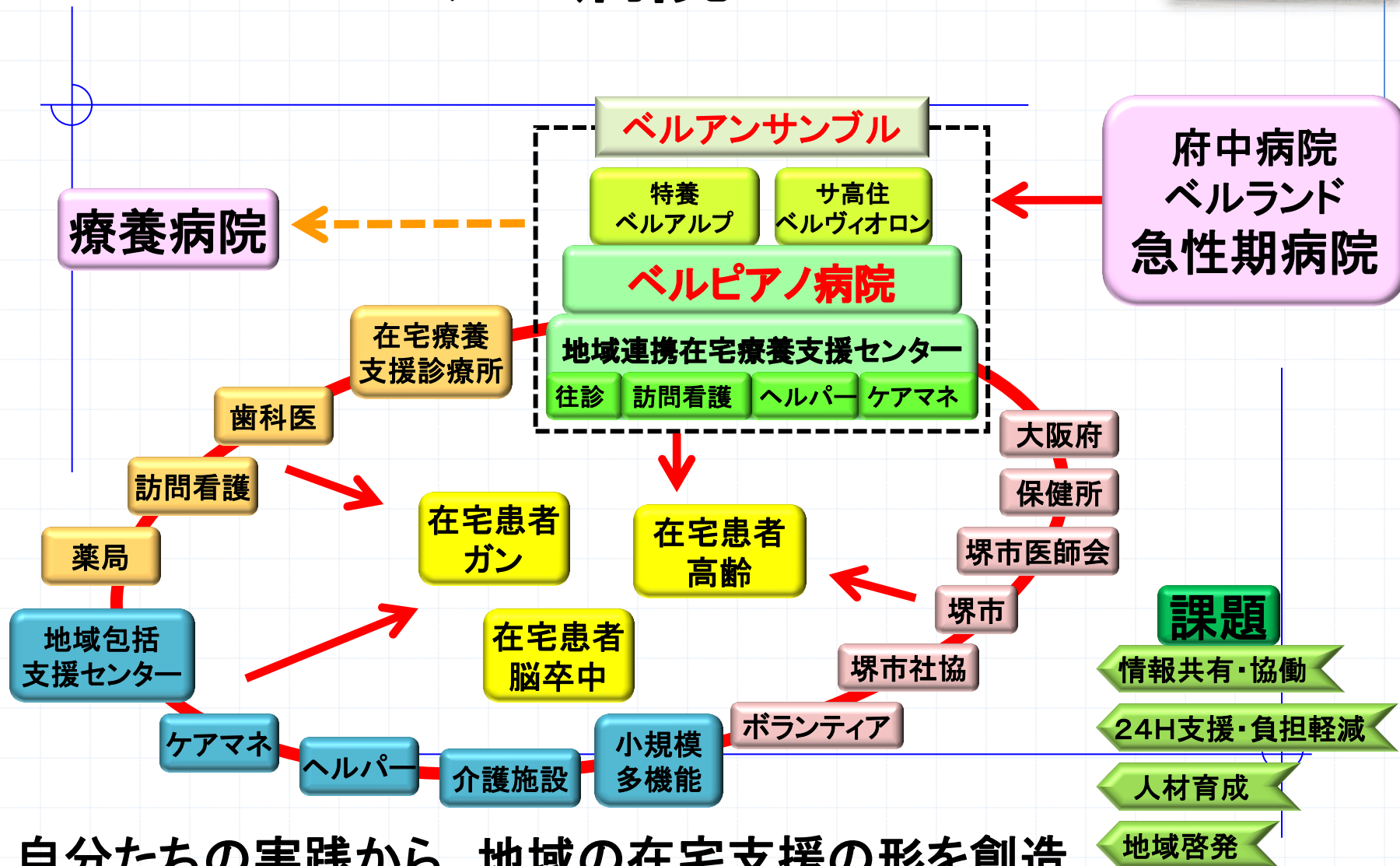


【グループワーク】

- ✓ 各職種の自己紹介
- ✓ 仮想事例の検討
- ✓ 葛藤のマネージメント



ベルピアノ病院 在宅医療連携拠点事業の実践



自分たちの実践から、地域の在宅支援の形を創造

ベルピアノ病院





帰ろう、住み慣れた街、
住み慣れた家へ

